



菊池善為子此詩集



芭蕉翁二百回取越追詣

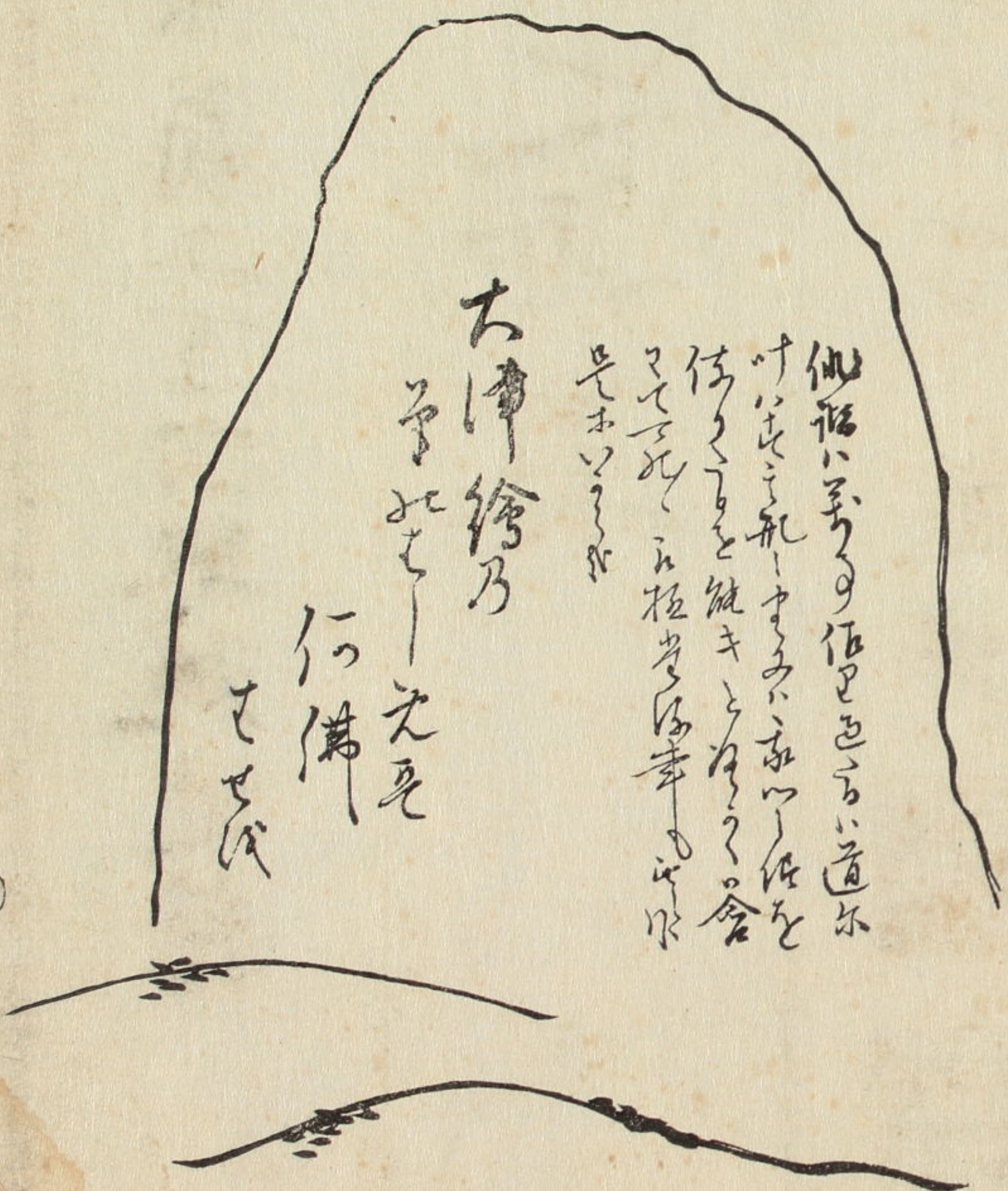
竹筆之跡集

明治九年十月藏梓



芭蕉真跡碑面模寫

東京築地本願寺地中法重寺建



大津繪乃

予此寺一光見

仁佛

ててて

仙蹤にまじりて任じさるる道
叶はぬを礼にやまふ心は
信じてを能きとなくる念
またてれに極き法重寺の
是ホソク

大津繪之佛像古筆縮圖

今モ大津画之佛像アレトモ古風矢ヘリ



按ニ昔ヨリ佛像ノ三真仰シテ多ク佛事ヲカキ藤娘タタヒハ閑暇ノ戯ヨリ出テ世ニ行ルモノカ

佛山心大慈如母是山也云況山了聖位皇太子
 二百五十四之流忍者也明治五年之有寺築地
 亦願寺境内ニ鎮座候山也靈像に似山こと少
 二月の末にの程を奉山れお山ら有志乃山人々
 依頼山し七才庭前山に山山氏山つ山き杉樹ある碑面
 指山し山宿願を思山ひ出山せ山し山芭蕉翁の大
 津語乃山奉山れ如山に何佛と山候山つ山ま山ひ山か山ら山り
 故山あり山七山なり山其山の山寺山一山軸山を山余山の山秘山藏山ニ山し山り
 其山の山文山の山ち山あ山る山を山用山ひ山自山文山に山信山字山と

成て其形を拓寫し一碑面を調刻して是に
建しより七年の星をあらわすにこゝに法橋本
堂に造営せられたる礎石たもとに似たり故に
境内法堂ちやう堂の傍に移して平くおし大
津海老の古事を書き元禄句集乃ちち大津
繪畫向し七行新くもきやこころもあはれ
又他借日本國といふ冊紙をこれを書きおし

暮をほつくと新割家とあり

そのころ
近分の繪佛は後世を担任せあり

いふもは徳川家のよまろくれ念佛をどろく
ちやうらまにせわしと業のよびしに殊勝の境
界とあり云ありし一追分の繪佛とそれ時代
よか山免許の本寺を安置せし中、稀に
しと只大津海老乃佛像を求めて家この壁に
つけられた供養をやりしと事とこと
とに舊のぬき素より念佛り者して仙頂
祥はく門といふ書、雲竹よまひ他借、香吟を
慕しと元禄年間のおま神の如くあり有

情をりてはあつたふらふ家の道徳少くは
 詩哥連俳乃唐もや清きく風文のまじり
 文といつては俗をいへば勤善淑悪世話
 を悟る修身の教法也好士も名を為す
 二百曲初と女の老い遠志を引あけ供養を
 といふことたのむる者大か高き山のとつこ

明治四年十月九日



真跡模刻

是のちのれ字し
 有るはし
 了るはし
 道はし
 才はし
 下はし
 光極はし
 今未はし

精め毛連入りしや友殿
吾様の折くうら落る様
多紅紙りのくさくさ
名月よおん如日和し
おんくさくさ地お撲の小屋
言さく程の疎忽何く
着く上子にんを無内
幸池の様様くお合
人好考のきぬを地

芳泉
精知
赤粉如
筆雅
素水
林浦
樹徳
雪我
長山

春雨にあらまき流るの輝
毛法のとやうきや先も
大抵と級おのり
青屋と巻由候
結納の目録さうり
京名粉の石汁ぬ
おんくさくさ
おんくさくさ
望遠鏡始終志川

巨宜
林舎
宇山
富水
五休
塔益
赤崎
呉仙
咲香

香煙のやも町懐の心
松杉の疎密と情と月明也
若豆信の持りし紙ふ
茶小袖の身中の廣い目名
船晴字のふき遊家の鐘
舟引を滞りてそ舞のふき
陽暮丸魚の揚り時
燈火の中は通うの一重町
志事と鐘の音は岸をくぐり

黙雨
永橋
市香
桂香
子麻
雪如
慈危
喜洲
柏葉

○

山城

あつらうり巻きたるそ萩見か
初月や高き橋橋をくぐり
若菜の咲きまゝ牡丹うら
紙をなす又ある蓮の清し
茶のや門をぬき舟をく
閑々舟をゆきそんたふき
ゆりそまきふ藤と船をり
舟はたも船の白かや膏

芥倉
九郎
文海
漁藤
百可
拾山
治守
良大

かき移みの子歌よきまは解きしる鐘
音も高きとてちや水鏡のり水
下りたさく高の流に木槿のり南
小解りて子歌よきまは解きしる鐘
蓮葉の廣しとてちや水鏡のり水
子歌よきまは解きしる鐘
古鐘のりちや水鏡のり水
月夜とてちや水鏡のり水
子歌よきまは解きしる鐘

士前
羽海
之燈
流翠
未啓
靜所
素候
破雨
片光

三河

明る秋をいそぐは花紅ちやのり水
とてちや水鏡のり水
子歌よきまは解きしる鐘
さきちの音の掛りちや水鏡のり水
ちや水鏡のり水

蓬岸
李川
石笠
標風

遠江

表のいぬ簾のり水
連翹のり水

十湖
三奏

蓬萊の如く帯たう教る毎う丸
蒙陽の如く帯たう教る毎う丸

解生
小桂

落河

凍結の如く帯たう教る毎う丸
北風冬の如く帯たう教る毎う丸
有る樹乃の如く帯たう教る毎う丸
柳の如く帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸

可柳
可柳
可柳
可柳
可柳

甲斐

九

人の如く帯たう教る毎う丸
先づ帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸

帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸
帯たう教る毎う丸

伊豆

遠水

法に於ては海の出口なりと云き川
風吹く一と取ありては枯れぬ南
海法に於てはたまたま何國か

格相
之友
如嶋

相換

石河の激音志川に於ては全無く丸
明る秋なりは花よりさき一稲の花
中川に於ては川に於ては谷可事
法に於ては花よりさき一稲の花
秋に於ては花よりさき一稲の花

壽道
雲雲
左赤
富升
尊巴

春も介は春よりさき一稲の花

雨葉

上総

春も介は春よりさき一稲の花
春も介は春よりさき一稲の花
出たふつと連なり春よりさき一稲の花
新しき春よりさき一稲の花
如くは春よりさき一稲の花

他山
昔我
一溪
美津女
隅香

下総

如くは春よりさき一稲の花

旭富

草子本下居あはれはるる子香
想あはれはるる月見の歌

鈴 鈴
鈴 月

常陸

魚は春も冬も流るる如くはる

東 雲

美濃

和泉の五月を言ふ一庵の垣

鈴 庵

日暮やをい掛るる風はあはる

井 草

井の子や寝るる川よい音あ

井 飛

鈴あはれはるる鈴直の鈴あはる

鈴 交

和の娘に枝も流るる夏乃月

和 和

和の女房水の流るる和乃月

和 白

信濃

和の娘に枝も流るる夏乃月

其 残

和の娘に枝も流るる夏乃月

省 我

和の娘に枝も流るる夏乃月

鈴 底

和の娘に枝も流るる夏乃月

鈴 扇

和の娘に枝も流るる夏乃月

一 秀

和の娘に枝も流るる夏乃月

林 車

江の島にたゞしとみそ春の月

採子女

相の世にたゞしや家毎にの煙

知淡

河の舟にまゝにたゞしや春の香

本浦

上野

夕の暮るるにたゞしや物とてを

為流

一羽の書もたゞしや春のよき縁に

有隣

あかき下りたゞしや春の香のれ

亮色

鳥のうらみもたゞしや春の汁

芳洲

月よきもたゞしや春の香のそ

峯古

人よりたゞしや春の香のそ

乙都

下野

春のよきもたゞしや春の香のそ

茂精

初雪もたゞしや春の香のそ

此山

春のよきもたゞしや春の香のそ

如川

越前

春のよきもたゞしや春の香のそ

雪主

加賀

春のよきもたゞしや春の香のそ

文墨

とらふもやふきふ茶種もあはれ秋

柏葉

城中

掃出きや道守の城の如く葉

其葉

川の如くもくも海へ流るる丸

藤渚

藤やわらわを思はして夢醒る

岩舟

城後

月へ油向ふ舟りたり夕潮

梅岡

あきれた心もささげしき秋の月

雪渚

ふき散るる夢中もあはれ氷塵

雅佛

椀さねをぬくもりや観音

文貞

さきもきやふき散るる秋の月

福有

牛車殿もあはれもりや時鳥

里三

押出さるる舟もあはれもり

月舟

おきぬる秋の月もあはれもり

翠岩

ふき散るる心もあはれもり

素公

枯きぬる心もあはれもり

百鶴

佐渡

鹿の心もあはれもり

水之

暖口多き子... 在 淡水

岩代

折るから... 如 園

燈台花に... 城 堀

喜の和や... 西 夏

燈明の... 葉 五

陸前

江のみ... 喜 宜

水... 如 浦

舟... 如 水

片... 沙 耕

梅... 水 山

陸中

山... 此 一

喜... 尺 路

相前

喜... 晴 山

蝶... 陽 山

如くも時をさしつ時句
一花のくさきさきさき初稿
可有
月山

羽後

深風や折燈ささく浪
重好もく唐鼓くわりの小松曳
焼り鐘よりのささき糖子の考
人のあひのんそく持てわ女所せ
善くはいさし中あつ本免の考
我儘伸た手際や膝の梅
交和
江
松
二
厚
嘉
山

あつらふの故き尺をに流る山
江刺
唯
山

江刺

さうはりの空をのめり松を垣の梅
涼しむ松あいま舟を懶の空
水音の一際音の意の事
一
松
山
橋
石

小橋

雨を松や雪のあつる松あり
船夕のあつる松あり
一
瓶
水
鯉

松鉾

少多いふ初春のころは 時 有

徐柳

因幡

家ちの〜花〜の〜先〜花〜

蒼成

橋の〜も〜の〜野人〜也〜蕃〜

庭波

葉は〜の〜ゆ〜の〜

鳥牙

出雲

土〜の〜中〜あり〜梅〜の〜

曲川

石見

橋の〜人の〜夕時 向

静雄

播磨

石羽折るを〜

月所

備前

遠山や〜

源成

い〜た〜

北景

備後

青柳の〜

翠喜

因幡

和〜の〜

春江

夏州の少高うまの塔の市

長門

梅窓

紀伊

月夜や世はくちの藤より

洪水

本常江の常江の藤より

芥文

淡路

今も好く風来流運くを

園集

阿波

岩隈の藤に常を並く

桃吉

維子唄や廣世に是れ風う

堯年

山を廻り見ると山を

思風

和己の女をうき踊る

史白

四五日ほど和をえき

控清

とく曲る川をうき

秀林

土佐

子月のあや揺るる

五葛

塙郷や河をうき

如山

和のおおきき

青袖

武蔵

下宮より北の山引橋、の南
 雲山故原風園の楮古く丸
 岩や如き〜岩の岫を云
 宵月や梅〜山は明〜
 高木は遠く石由や〜麻の鳥
 たすの岫雉のたは水鏡に
 足跡の目〜岩〜山は平茶
 聖屋高や梅に〜山は平茶

完路
 源岫
 一岫
 青岫
 月桑
 弁二
 翠兒
 岩如

林の杉は夜を〜山の本の宿に
 飛ぬ〜山麓の如き群は〜
 岫を〜山麓の如き群は〜
 高木の〜山麓の如き群は〜
 逗留の宮や柳の春を〜
 山麓の如き群は〜
 釣柿や山々山麓の軒を〜
 高木の〜山麓の如き群は〜

左助坊
 友昇
 枕孝
 一理菰
 三菜
 外史
 市月
 可号

武蔵

積葉のまがき初月
雨雲のまがき通入や船の憂
初月や西風めくははるき
岸江のまがき無行の怪の所
初雪のまがきおはる初夜
家のあるまがきおのりまがき
新雪のまがきおのりまがき
口切やまがき信んまがき
初月や初雪のまがき

初葉富
永襟
禾曉
石更
菊雄
岸山
菅笠
是三
然正

啄木や蜂の文を返あ
唐紙初雪のまがき初時
庭にまがきおはる初夜
樹常まがき初雪のまがき
空のまがき初雪のまがき
まがき初雪のまがき初夜
初月や初雪のまがき初夜
雪江のまがき初雪のまがき
初月や初雪のまがき初夜

精和
林浦
桂花
泰山
呉仙
春海
志色
芳泉
巨直

如常

禱り申すに
建つる
時自降

きき女

二万五千
中近は
蕉翁の碑を
建てる
に
候き
し
る
為
に
程
の
原
より
志
を
然
候
志
く

能

千一

お
成

禱り申すに
建つる
時自降



碑を建集を強く
神宮のくくくを授かる
大喬建の信しるるを
毎刻一々

ひまのくくくくく
くくくくくくくく

はるのくく湖

祀るにふくくくくく
白碑を建まうく退福の集と
強くす集し大島子に志は
はるのくく

新くくくく
花降くくくく

幸と歌月之本 為山

翁の二百歳忌

くさりの葉の廣き

教を識友と

二百年と志らぬ

我りし業理

梅成

翁の老を思ふに余の秘苑を肖像を
ての香粟村義仲寺においでし向會は
蝶夢の如く弥陀佛様の様を
まの手にたもてありて先き
の此乃木ありてと画像の
一袖の影をとりたるの
色はま田の如く三子風宗
をこし一た十拍ある更
あまの二葉の如く
七つは田の如く
情をまひあふの如く

吊りしり多しき神像にぬるき三三思
を楮梅にて香を拈く

西行をいふお初にぬ
時より其の比に如き一物
等、梅に如き葉毎降るに

大島老人


因りて老翁を見奉りしを物にうけ

大陽暦明治九年一月末社六日を大陰暦十二月一日に
降るる雪の中輝かり末陽より雪は降ぬ中経路満
と降る積り七日の晨も如きは雪も降り余六十の二坂
を越ゆるに心もいふ雪を舞と思ひて僕をいさぬに
此雪神田神の山をぬる神宮をぬる末社毎午順
路に雪奥山は雪積る雪の足踏に只雪に雪を色
の楮梅分ち或は樹木より雪を落す樹木の性来たる雪を
雪を風系より雪を落す雪を落す雪を落す

吹雪は又ゆきねむるに空の舟

扇の書は常の事なりけり湯島三軒の舟に
石垣の舟に舟の積りて空は海なりとて舟は舟なり
舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり
舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり

舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり

舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり
舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり
舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり
舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり

舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり

舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり
舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり
舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり
舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり

舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり

舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり

舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり
舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり
舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり
舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり舟は舟なり

雪の夜好し 真山松みなり あつちだ 東橋を築く みちう 三國神宮
押さふし 本結梅安の初も終り

神の梅より 吹雪の白い丸
陰雪は 雪哉 梅より ありふらば
吹雪も 表は 雪の 下に あり 梅鳥

牛の道前 長倉を 雪より 所回 橋を たり けり 雪
の 雪より 水ぬき 雪より 白梅 社を あり 雪
降は 雪の 尺四五寸 あり 雪の 梅樹の 透雪
く 雪より 雪の 式 尺より あり 雪の 梅鳥

人より 雪の 梅より 雪の 梅より 洋橋 梅より 雪の
雪の 梅より 雪の 梅より 雪の 梅より 雪の 梅より
雪の 梅より 雪の 梅より 雪の 梅より 雪の 梅より
雪の 梅より 雪の 梅より 雪の 梅より 雪の 梅より

梅の 雪より 雪の 梅より 雪の 梅より 雪の 梅より
雪の 梅より 雪の 梅より 雪の 梅より 雪の 梅より
雪の 梅より 雪の 梅より 雪の 梅より 雪の 梅より
雪の 梅より 雪の 梅より 雪の 梅より 雪の 梅より

